

日本の海外移民 その1

一本屋にない本から

平成2年6月25日(月)～7月6日(金)

1908年6月18日、日本からの初のブラジル移民がサントスに上陸したのを記念して、この日は「海外移住の日」となっています。それに因んで、今回は海外移民に関する本一特に各移民の出身地、あるいは入植地の日系人団体がまとめた記録を中心に採り上げました。

なお当館では、現在中南米の移民関係資料を継続して収集しており、それらの一部は、次回に紹介する予定です。

展示資料リスト

1. ブラジル沖縄移民誌

屋比久孟清編著 サンパウロ 在伯沖縄県人会 1987 355p <DC812-E61>

上記、1908年の初のブラジル移民者781人中、半分近くを占め、現在ブラジル日系人の10%、8万人に及ぶ沖縄出身者の、初期移民から現在までの記録。

2. ボリビア・コロニア沖縄25周年誌

金城達巳編集責任 Santa Cruz ボリビア・コロニア沖縄入植25周年祭典委員会
1980 388p <DC812-238>

困窮する戦後沖縄を移民受け入れにより救援しようと、ボリビアの同県出身者が計画、「ボリビアの沖縄村」として拓かれたコロニア沖縄の、25年にわたる開拓と発展の記録。

3. 栄光への礎 パラグアイ日本人移住50年史

パラグアイ日本人移住50周年記念誌刊行委員会 1987 447p <DC812-268>

当地の日本人連合会の企画によるパラグアイの日本人移民の記録。特に移住者動態資料として、1936年以降の入植記録が、出身県を問わず、全入植地にわたって詳細に記されている。

